

熊本大学 戦略の進捗状況（令和元年度）

戦略番号 1

戦略名 世界レベルの研究拠点の充実と先端的新分野の開拓による世界への挑戦

【戦略の概要】

本学の強みである生命科学及び自然科学の両領域において、部局の壁を超えた研究者人事を可能とする「国際先端研究機構」を設置することで、国内外の優れた人材を結集し、国際共同研究及び融合研究を推進するとともに、先端研究を組織的に展開できるリーダー人材の育成に取り組む。これにより、本学が世界と伍する諸研究を更に進展させ、世界をリードしていく新たな研究分野を創出し、その成果を世界に発信する。

評価指標	進捗状況
研究力に関する指標の増加状況（生命科学系及び自然科学系における国際共著論文率）	国際先端医学研究機構、国際先端科学技術研究機構の国際ネットワーク及び研究競争力を活かして、韓国科学技術院（KAIST）との共同シンポジウムを開催し、複数の研究領域による新たな国際共同研究モデルの形成を図るなどした結果、当該年度目標値 27.6%に対して実績値 31.3%と目標を達成することができた。
研究力に関する指標（生命科学系及び自然科学系における科研費の一人当たり保有件数）	科研費獲得のための推進事業「科研費インセンティブ」を継承して、若手型と上位種目に再挑戦するベテランを対象とした基盤研究A・B重点型の2種類の支援を備えた「科研費リトライ支援事業」として再設計し、計 55 名の研究者が利用し、うち 26 名が採択され、当該年度目標値 0.536 件に対して実績値 0.541 件と目標を達成することができた。
国際レベルの人材育成や人材の流動に関する指標の増加状況（生命科学系及び自然科学系における海外大学との交流協定数）	前年度に引き続き、協定大学とのアライアンスの活用並びに国立六大学連携コンソーシアムの活動による情報発信などにより、チュラロコン大学、北京理工大学、マルタ国立大学等と協定を締結し、当該年度目標値 195 件に対して実績値 246 件と目標を達成することができた。
研究成果の社会への還元に関する指標の増加状況（生命科学系及び自然科学系における知財の発明件数、特許出願件数、特許取得件数）	発生医学研究所では、多能性幹細胞からの腎臓誘導法について国際特許を、先進マグネシウム国際研究センターでは、難燃マグネシウム合金関係で国際特許を5件取得するなどして、当該年度目標値 756 件に対して実績値 827 件と目標を達成することができた。

戦略番号 2

戦略名 旧制五高以来の剛毅木訥の気風を受け継ぎ、“Global Thinking and Local Action” できる人材育成

【戦略の概要】

従来の受動的教育から能動的教育へと教育の質的転換を断行するとともに、高校までに培った学力の3要素を多角的・総合的に評価する入学者選抜方法を導入し、入口から出口までの質保証システムを、大学教育統括管理運営機構を中心に構築することで、柔軟な思考力と確かな専門力に加え、多様な価値観や社会規範を受け入れ、グローバル化・多極化する社会で果敢に行動できる人材（“Global Thinking and Local Action” できる人材）を育成する。

評価指標	進捗状況
高大接続に関する指標（入学予定者の英語教材による事前学習の実施状況）	前年度と同様に e ラーニングを利用した自宅学習とスクリーニングを実施した。TOEIC 模擬テストの実施や e ラーニング用教材を本学学習運営システム（Moodle）へ導入しコンテンツの改善を図った結果、当該年度目標値 10 時間に対して実績値 16.4 時間と目標を達成することができた。
国際感覚の修得状況（単位取得を伴う海外留学経験者数）	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う先方の受入中止や学生による渡航自粛を受けて、交換留学・短期留学プログラムによる派遣をはじめとした第 4 四半期の派遣が予定どおり実施できなかった。このため、当初、実績値が 857 名と見込まれていたところ、結果として派遣が行えなかった 244 名分（現地情勢悪化のため渡航を中止した 6 名を含む。）を除いた 613 名に留まり、当該年度の目標値 839 人に達することはできなかった。</p> <p>【進捗状況を踏まえた令和 2 年度以降の取組内容】</p> <p>8 月上旬時点で、212 の国／地域において日本人に対する入国制限措置及び入国後の行動制限措置がとられており、本学においては 10 月末までに予定される学生派遣は原則として中止または延期とし、それ以降については、外務省が発出する感染症危険レベルなどの状況により改めて検討する。引き続き諸外国との物理的往来の困難が予測される中で、学生の国際感覚の修得を推進するため、協定校サマープログラムへのオンライン参加及び Multidisciplinary Studies（多様なテーマについて英語で授業を行う科目群）として第 3 タームに開講する科目において、海外協定校であるスラバヤ工科大学（インドネシア）との間で、COIL（オンライン国際交流学習）による協働学習を予定するなど、オンライン交流プログラムへの参加や国際協働学習の実施を計画し、異文化理解やコミュニケーションスキルの習得を促進する方針である。</p> <p>また現在、交換留学先から一時帰国し国内でオンライン学習を</p>

	<p>継続している学生も存在しており、彼らに対するサポートを始めとして、オンラインによる海外大学の授業受講といった新しい形での国際的な学びの促進に努める。</p> <p>さらに、来年4月には本学初のジョイント・ディグリー・プログラムとなるマサチューセッツ州立大学ボストン校との紛争解決学国際連携専攻を開設予定であり（令和2年7月31日付け認可）、英語を共通言語としてコミュニケーションする力を備え、多様な人たちと協調した活動を牽引する世界の架け橋となる人材の養成に取り組む。</p>
<p>行動力修得の指標（本学卒業生採用企業のうち、本学卒業生はく社会的な実践力＞を修得していると回答した企業の割合及び本学大学院修了生採用企業のうち、本学大学院修了生はく地域社会を牽引するリーダーカ＞を修得していると回答した企業の割合）</p>	<p>新任転任教員等研修会において Moodle を活用した学生の主体的・能動的学修を促進させる授業方法等を周知し、また、教員側の意識と学生の意見について調査・集計・分析し、更なるアクティブラーニングの実質化に向けた検討を進め、当該年度目標値62%に対して実績値67%と目標を達成することができた。</p>
<p>人材育成の成果としての学生の就職状況（上場企業への就職率）</p>	<p>県内企業訪問（約80社）、学生向け県内企業合同説明会（56社参加）等を実施した。また、先輩キャリア交流会、女子学生のためのキャリアセミナー等多様な取組を実施し、当該年度目標値42.6%に対して実績値46.8%と目標を達成することができた。</p>

戦略番号 3

戦略名 熊本大学の“特色”を活かし、多様な豊かさを有する熊本の維持・発展に貢献

【戦略の概要】

地域ニーズと本学の特色ある知的・人的資源（シーズ）のマッチングを一層推進するため、「熊本創生推進機構」等の学内組織を整備し、産業振興・人材育成・雇用創出、豊富な地下水資源を取り巻く安全・安心な地域づくり、地域社会の歴史文化の承継と発展、都市部から限界集落のニーズに応じた教育機会の提供等に取り組むことで、熊本地域の経済/自然環境/歴史文化/知識基盤等の維持・発展に貢献する。

評価指標	進捗状況
地域の環境保全・防災への学術的貢献の指標（環境保全や防災に関する論文数、シンポジウムの数）	本センター主催で国際会議“Climate Change, Disaster Management and Environmental Sustainability”を開催し、国内外の研究者とのネットワーク強化を図るなど活発な研究活動を行った結果、当該年度目標値 252 件に対して実績値 408 件と目標を達成することができた。
地域の歴史文化振興への貢献の指標（地域の歴史文化に関する論文数（「著作等」を含む））	稲葉センター長著『歴史に今を読むー永青文庫・熊本からの発信ー』（熊日出版）を刊行するなど、積極的に学界及び地域社会に対し研究成果を発信し、当該年度目標値 100 件に対して実績値 165 件と目標を達成することができた。
生涯学習の推進状況（eラーニングにより開講される科目を履修する社会人受講者数）	前年度に引き続き、eラーニングを活用した公開講座を全国5箇所で開催し、また、受講生へのアンケートに基づくフィードバックによる改善を図った結果、当該年度目標値 1,452 人に対して実績値 1,647 人と目標を達成することができた。
地域の課題解決への取組状況（県内の地域企業等との共同研究の実施状況件）	企業との連携機会創出のため、産学連携 URA が研究者 131 名と面談を行い、新規に 72 件のシーズを集め、シーズ集を分野ごとにまとめて企業訪問等に活用し、また、県内市町村との間で自治体法務に係る人材育成の共同研究を進めた結果、当該年度目標値 154 件に対して実績値 241 件と目標を達成することができた。